

○第28回熊野川の総合的な治水対策協議会 議事要旨

開催日時：令和7年3月17日（月）15:00～17:00

開催場所：新宮市役所（WEB 併用）

出席者：天川村長、五條市長（代理）、野迫川村長、十津川村長、新宮市長、熊野市長（代理）、紀宝町長（代理）、下北山村長（代理）、北山村長、三重県県土整備部長（代理）、奈良県県土マネジメント部長、和歌山県県土整備部長、関西電力（株）再生エネルギー事業本部副事業本部長（代理）、電源開発（株）西日本支店長、近畿中国森林管理局治山課長、近畿地方整備局河川部長、紀南河川国道事務所長、紀の川ダム統合管理事務所長、紀伊山系砂防事務所長

1) 連絡調整会議からの開催報告

近畿地方整備局河川部より報告

2) 各機関の取り組み状況の報告、意見交換

（1）河川改修と利水ダムの治水協力

・河川改修の進捗状況

近畿地方整備局河川部、紀南河川国道事務所、奈良県、和歌山県、三重県より説明

・ダムの治水協力

電源開発（株）、紀の川ダム統合管理事務所より説明

（2）濁水対策を含むダムの運用・管理

近畿地方整備局河川部、電源開発（株）、関西電力（株）、紀の川ダム統合管理事務所より説明

（3）治山・砂防・河道閉塞対策（濁水の発生源対策の効果を含む）

近畿中国森林管理局、奈良県、和歌山県、三重県、紀伊山系砂防事務所より説明

（4）「ダム・河川の機能と環境を考えるシンポジウム」の実施報告

十津川村より報告

→（十津川村）

昨年11月26日に「ダム・河川の機能と環境を考えるシンポジウム」を開催させていただいたことについて、国土交通省、奈良県、電源開発、そして京都大学の角先生等、コーディネートしていただいた皆さまのご支援をいただいたこと、重ねて感謝を申し上げます。

その上で竹村先生からいただいたご提言の数々を実現できるよう、村としても全力で取り組みたいと思っておりますので、ぜひ関係機関の皆様方にはご支援をお願いしたい。

また、具体的には特に排砂バイパスの建設については、電源開発に早期実現を強く願う次第です。

堆砂排除が進めば、ダム貯水ポケットが大きくなり、下流域の濁水対策のみならず、強力な洪水対策になり得るのではないかと期待しています。そして、海岸地域の養浜にもつながると考えております。

一方、現在、十津川村の堆砂の深刻さについては、今がその堆砂のピークを迎えているという状況でして、今後期待する足元の取り組みとしては、湖外搬出、村外への搬出を徹底して進めていただきたい。例えば、海岸の養浜の材料として活用していただくために、十津川村から和歌山県、そして三重県紀宝町までの陸送等による搬出をぜひご検討いただきたい。

また、排砂バイパス等もそうですが、地域ごとの複雑な調整も必要だと思いますので、国土交通省におかれましては、強いリーダーシップを発揮していただいて、県・市町村・ダム管理者が同じ方向で取り組んでいけるよう、スムーズな流れが生まれることをぜひ期待を致しています。

また、いろんな形での熊野川に関する対策の可能性を議論いただく場としての総合土砂管理専門部会は本当に大きな期待を抱いています。

ぜひいろんな形で、前向きな取り組みにより堆砂の問題等が解決するようご対応をお願いします。

→（新宮市）

治山や砂防など国、県、電源開発、関西電力などの協力のもと、諸課題解決に向けた取り組みが推進されておりますことに改めて感謝を申し上げます。

治水についてですが、幸いなことに近年は大きな出水はなく、各地取り組みの効果も相まって浸水被害等も発生していませんが、引き続き治水機能強化など、より万全で安心できる対策を講じていただきたくお願いします。

また濁水について、有識者からも治山事業等の進展により発生土砂が抑制され事業効果が発現してきています。ただし、少量の降雨でも河川へ土砂が流入し、濁水が発生しており、治山事業等の推進が重要であるとの意見をいただいています。

昨年7月には、熊野川が世界遺産登録20周年を迎え、熊野川本来の豊かで世界遺産にふさわしい清流を取り戻したいという地域住民の思いはますます強まっており、濁水問題の大本対策として、この治山・砂防事業等については、地元住民の関心も高まっております。

事業完了に時間を要することは承知していますが、さらなる推進何卒よろしく願います。

3) 熊野川における取り組み状況の報告

(1) 熊野川の今後の取り組みの方向性について (提案)

(2) 国と電源開発の協働検討の実施状況について

近畿地方整備局河川部より説明

→ (電源開発株式会社)

治山砂防事業の推進についてはご協力をいただいております弊社としても、切に期待し要望するところです。

一方で濁水対策については、これまで実施してきました設備対策、これを有効に活用すべく、今後もモニタリングを継続し、対策効果を検証し、その上でさらなる改善に努めたいと思っています。

4) ダム操作に関する技術検討会からの報告

・今年度の検討内容

・池原ダム・風屋ダム高水位運用に係る取組について

電源開発(株)より説明

→ (近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所)

アンサンブル予測を活用の引用について(資料130ページ)赤丸以外は的中していないことになるのでしょうか。アンサンブル予測の評価を教えてください。

→ (電源開発株式会社)

長時間アンサンブル降雨予測による水位低下開始基準に該当する範囲を色分けしています。青が15日先、緑が10日先、ピンク色が5日先です。水位低下基準1・2(事前放流の実施基準)に問題なく移行できるかを確認したものが赤丸です。

それ以外のところは、長時間アンサンブル降雨予測による水位低下開始基準に該当するものの、実際の流入量は洪水量未満であり、これは「空振り」と評価しています。

→ (近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所)

長時間アンサンブル降雨予測が的中する精度は低いが、見逃しはないため、出水時の体制が確保されており、臨機の対応が可能という判断のもと試行運用していくということでしょうか。

→ (電源開発株式会社)

そのとおりです。

5) 現場見学会の報告

近畿地方整備局河川部より報告

→特に意見無し